

JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）9月号

1. 「二十世紀梨」大阪の市場で初セリ 10kg箱20万円に

鳥取県の特産品「二十世紀梨」の今季の初競りが大阪府と東京都の市場で開かれ、両市場ともに過去最高値が付いた。8月25日には、大阪中央卸売市場で、琴浦梨選果場の梨10^{kg}（赤秀5L20玉）が最高値20万円で競り落とされ、前年の初競り最高値8万8,800円を2倍以上上回る結果となった。27日には東京都中央卸売市場大田市場でも、仲買人が次々と手を挙げ、東郷梨選果場の梨10^{kg}（赤秀5L20玉）が10万円の値を付けた。



今年の梨は、近年の中でも大きさ、糖度がトップクラスで、肌もきれいな仕上がりで大田市場仲卸からは「海外での二十世紀梨のブランド力は健在。色が良く大きいので見栄えがする」と評価を受けた。

2. 平井知事に、鳥取すいか販売額36億円超えを報告

JA鳥取中央の栗原隆政組合長と管内のスイカ4産地の生産部長は8月22日、鳥取県庁を訪問し、平井伸治知事にスイカの販売額が36億6,826万円で終了したことを報告した。栗原組合長は「5年前から30億を超えており、手ごたえは感じていた。安定した食味評価が好成績につながった」と振り返った。



今シーズンは、353戸が約260^畧でスイカを栽培し、販売数量は1万4,864^ト（前年比111%）で、1^{kg}当たりの単価は247円と過去最高となった。

平井知事は「コロナで厳しい中、工夫をしながら売り込みを図り、全国に鳥取のスイカが浸透してきた。切れ目のない収穫により、市場の賛同を得ることができた。今後も様々な挑戦を県も応援していく」と話した。

3. 子ども食堂へ梨「二十世紀」「家の光」等贈呈

J A鳥取中央は、倉吉市社会福祉協議会を通じて倉吉管内の子ども食堂へ、梨「二十世紀」と農畜産物引換券を贈呈した。

同JAでは地域貢献活動の一環で、地域の子どもや若者、高齢者の自立支援を目的に平成30年から食材の提供を行っている。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でさまざまな活動が制限される中、地域交流の場である子ども食堂を利用される方たちに

有効に時間を過ごしていただくために、昨年からは「家の光」と「ちゃぐりん」も提供している。「家の光」は毎月旬の農産物を使った料理の紹介や、「ちゃぐりん」はまんがで子ども達が楽しめる内容となっている。

これらの記事をきっかけに利用者や地域住民のコミュニティの輪が広がっていくことを願い、今後もこの活動を継続していく。



以上